特集

アイヌ文化に触れて感じる

5月28日、嵐山で「チノミシリカムイノミ」が行われました。1年の無事を感謝し、幸せを願って祈りを捧げる儀式です。執り行ったのは、旭川アイヌ協議会、旭川チカップニアイヌ民族文化保存会、ピリカウレシカの会の皆さん。アイヌ文化に関心を持つ市民や大学生、高校生も参加しました。

嵐山は、アイヌ民族が「チノミシリ」（チ＝私たち、ノミ＝祈る、シリ＝土地・山）と呼ぶ神聖な場所。現在は、アイヌ民族の住居「チセ」などを復元した「アイヌ文化の森　伝承のコタン」があり、かつてのアイヌの暮らしを垣間見ることができます。

旭川には他にも、アイヌ民族の歴史や文化が息づく場所がたくさんあり、自然と一体となって暮らしていたアイヌの文化に関心を寄せる人たちも増えています。

今回は、アイヌ文化を発信する人たちや、興味を持って学ぶ人たち、歴史や文化の伝承を担う人たちの思いを紹介します。

嵐山で行われた「チノミシリカムイノミ」

時を超えて、現代に発信されるアイヌ文化

伝統を尊び、チノミシリカムイノミのような儀式を継承する一方で、新しい感覚でアイヌの音楽やアートを発信する人たちがいます。

伝承されてきた歌声を新たな感性で自由に楽しく

アイヌ民族の伝統歌ウポポを歌い継ぐ「マレウレウ」は、ウコウク（輪唱）が特徴の女性ボーカルグループで、国内外で精力的に公演を行っています。

マレウレウとは「チョウ」のこと。左からマユンキキさん、ヒサエさん、レㇰポさん

アイヌの伝統弦楽器・トンコリの奏者で世界的に活躍するOKーさんのライブに出演したり、作曲家の大友良英さんのプロデュースで、NHKEテレのアニメ「オトナの一休さん」の歌を担当するなど、活動の幅を広げています。

リーダーで旭川出身のレㇰポさんは「アイヌ記念館の敷地内に住んでいたので、子供の頃からアイヌの踊りや歌を見たり聞いたりして育ってきて、あんなステージで踊ってみたいな歌ってみたいなと憧れていました。全国で公演をしますが、アイヌ文化にあまりなじみがないお客さんの反応がとてもいいです。アイヌの音楽という先入観を持たずに、1つの音楽として聞いてほしいです」と話します。

レㇰポさんの妹のマユンキキさんは「伝承のためではなく、純粋にかっこいいと思い、ウポポを歌い始めました。残っているウポポの音源は、どれも年を取った人の声です。伝統を受け継ぎつつも、無理に音源に近づけようとせず、今の若い歌声で、自分たちらしく表現したいです」と話します。

漫画で楽しみながら触れる

マンガ大賞2016の大賞を受賞した『ゴールデンカムイ』をはじめ、アイヌ民族が登場する漫画が注目されています

『ゴールデンカムイ』
（©野田サトル／週刊ヤングジャンプ・集英社）

『イ　シカリ神うねる河』
（横山孝雄／汐文社）
※品切れ中。図書館で貸出し可。

『エシカルンテ』
（森　和美／講談社）

アイヌ文化を知ることは、自分の故郷を知ること

「新しいアイヌ文化が生まれつつあると感じています。伝統的な文化を守っていく一方で、伝統に新しいものを付け加える人たちも出てきています」と話すのは、アイヌ研究者として知られる博物館館長の瀬川拓郎さん。博物館は充実したアイヌ関連の資料を展示・収蔵しており、全国からも多くの人が訪れています。

瀬川さんは「博物館だけでなく、旭川には、アイヌの伝説に彩られた豊かな自然、アイヌの人々が刻んできた歴史を学び、文化をより深く理解できる施設や、伝えようとする活動があります。こうした環境があるのですから、ぜひアイヌ文化に触れて学び、歴史を知ってほしいです。それは自分の故郷の歴史を知ることでもあるのですから」と話します。

博物館館長の瀬川拓郎さん

幸恵さんは誇りです

北門中学校３年生の川上香奈美さん「幸恵さんが書き、大正12年に出版された本が、今も読み継がれているのはすごいと思います。19歳で亡くなったのは悲しいですが、今も私たちの誇りです」

知里幸恵生誕祭

その昔、美しいアイヌ語が響いていた場所で

初めてユカラ（口承文学）を文字で表した『アイヌ神謡集』を、19歳でまとめた知里幸恵。かつて幸恵の家があった北門中学校校庭に建つ文学碑の前で、毎年６月８日、生誕祭「銀の滴降る日」が開催され、アイヌ語を後世に残すという幸恵の願いを思い、祈ります。

知里幸恵文学碑・北門中学校郷土資料室（北門中学校錦町15　☎51・1431）

北門中学校郷土資料室
※見学希望の方は事前に連絡を。

学んでする

「アイヌ文化情報コーナー」
7558）でも、アイヌの
介しています。

北海道だからこそ

旭川大学１年生の山　脩斗さん「自然と調和し歩んできたアイヌの生き方に興味を持ちました。アイヌの歴史や文化を知ることは、北海道に暮らす人間として大事なことだと思います」

アイヌ文化の森　伝承のコタン

聖なる山に祈りを捧げ　コタンの暮らしに思いをはせる

「アイヌ文化の森　伝承のコタン」には、アイヌ民族の住居などを復元。上川アイヌの長・クーツンクレや木彫熊の祖・松井梅太郎の碑もあります。嵐山公園センターでは、アイヌ民族の植物利用を展示。

アイヌ文化の森　伝承のコタン（鷹栖町字近文９線西４号　☎55・9779）

実際に体験して

旭川龍谷高校２年生で郷土部の石崎華央さん「まちのすぐ近くに、アイヌ民族の伝統を伝える場所があることに感動します。実際に儀式を体験して、嵐山が神聖な山であることを実感しました」

刺繍・サラニプ講座

個性的で美しい手仕事を伝承する

アイヌ民族の生活用具や儀礼具などの資料を展示している市民生活館では、アイヌの伝統的な刺繍（ししゅう）や、サラニプ（かご）、チタラペ（敷物）を作る講座を開講。人気の講座で、長く続ける受講生もいます。

市民生活館（緑町15　☎52・8866）

受講生に引き継いで

刺繍を教える小河原憲子（おがわらのりこ）さん

「母や祖母の刺繍を見て育ちましたが、今ではアイヌ女性でも伝統的な刺繍ができる人は少ないです。ここの受講生にぜひ引き継いでほしいです」

旭川に来たからには

サラニプを学ぶ楢木野睦美（ならきのむつみ）さん「３年前に大阪から旭川に移り住みました。旭川では、ぜひアイヌ文化を学びたいと思っていたので受講しています。自然と共生してきた生き方に敬意を払いたいです」

触れて、理解

ここで紹介している場所の他、
（旭川駅構内　☎25・
歴史や文化を紹

アイヌ語講座

アイヌ語を通して北海道を学ぶ

博物館のアイヌ語講座では、歴史や文化を交えながらアイヌ語を学びます。毎月第２・４木曜日の午後２時～４時、毎回10人以上が熱心に受講しています。

博物館（神楽３の７　☎69・2004）

１人でも多くの人に

アイヌ語を教える太田（おおた）　満（みつる）さん「アイヌ民族でも若い世代はアイヌ語を話せない人が多いです。言葉は、話せる人が亡くなれば失われてしまう。１人でも多くの人に教えたいです」

豊かな世界が広がる

アイヌ語を学ぶ広谷和文（ひろやかずふみ）さん「北海道では、日本語が話される前から各地域でアイヌ語が響いていたのです。アイヌ語を学ぶことで世界が広がり、自分が豊かになる気がします」

知ってほしい、近文アイヌの歴史

今年、開館100周年を迎えた「川村カ子トアイヌ記念館」について、副館長の川村久恵さんに話を聞きました。

アイヌの歴史と文化を伝える

アイヌ記念館は、大正5年にアイヌ文化を正しく理解してもらうことを目的に始めました。当時の記念館周辺は、知里幸恵さんの『アイヌ神謡集』の序文に描かれている様子そのものでした。

100年で環境は一変し、この辺りで当時の面影を残すものはアイヌ記念館しかありません。私財で運営してきたアイヌ記念館は、旭川の観光や文化の振興にも寄与してきました。様々な理解者や協力者のおかげで、記念館を続けてこられたことに感謝します。

生活様式や自然環境の変化によりアイヌ文化の伝承は難しくなっています。言葉を大切にしてきたアイヌが言葉を失い、物を作るのに必要な材料の調達も難しい状況です。アイヌというと、昔の知恵や文化について聞かれることが多く、近現代や現状に目を向けられることは少ないと思います。アイヌは、アイヌの発展を願った先祖の思いを胸に、アイヌ文化の伝承に努めています。音楽や漫画をきっかけに、歴史や現状にも目を向けてもらえるとうれしいです。

今後は、市民の皆さんが気軽に来て憩えるカフェスペースを設けるなど、アイヌ記念館を、アイヌ文化をもっと身近に感じてもらえる空間にしたいと思っています。

アイヌ記念館副館長の川村久恵さん

◎

知里幸恵はアイヌ民族について「その昔、この広い北海道は私たちの先祖の自由の天地でありました。天真爛漫な稚児のように、大自然に抱擁されてのんびりと楽しく生活していた彼らは真に自然の寵児、なんという幸福な人たちであったでしょう」と書いています。

自然を敬うアイヌ民族の暮らしや文化は、今を生きる私たちが忘れつつあることを教えてくれるでしょう。

【詳細】博物館☎69・2004

川村カ子トアイヌ記念館

（北門町11　☎51・2461）

開館100周年記念事業

「ぴりかうれしか（心豊かなくらし）」をテーマに、開館100周年記念事業を開催。詳細は同館にお問い合わせください。

記念式典

内カムイノミ（神への祈り）、ウポポ（古式舞踊）、講演「記念館と近文アイヌ」ほか　日8月6日㈯午後1時～5時　所同館　定100人　料入館料が必要　申同館

ぴりかうれしかアート展

内彫刻、絵画、布アートの展示　日8月6日㈯～31日㈬　所同館　料入館料が必要

ぴりかロマンティックツアー～近文アイヌゆかりの地とパワースポットを巡る

内知里幸恵文学碑、旭岡墓地（アイヌ墓地）などを講師の解説を聞きながら見学　日8月7日㈰午前8時30分～午後5時　定50人（小学生以下は保護者同伴）　料1,000円　申同館

大友良英さんとマレウレウによる音楽ワークショップ

日8月8日㈪　午後1時～3時　所同館　定30人　料1,000円　申同館

シンポジウム「ぴりかうれしかな観光」

内新しい観光の在り方を考える
日8月9日㈫　午後3時30分～5時30分
所旭川トーヨーホテル（7の7）　申同館

ぴりかうれしか歴史講座

内日●遺跡から見た上川アイヌの歴史＝7月24日㈰　●近文アイヌの近代史＝8月14日㈰　●口承文芸の心の世界＝8月28日㈰
午後1時30分～3時30分
所同館　定100人　料入館料が必要　申同館

アイヌ語入門講座（全20回）

日1回目は7月29日㈮　午後7時～9時
所同館　申同館

内内容　日日時　所会場　定定員　料料金
申申込を表します